

Interview

業務管理G 生産管理I 主任



未経験からのスタートでありながらも、着実に成果を伸ばし続けている社員がいる。彼は日々の業務では、どのような意識で努力を重ねているのだろうか。また、子どもが生まれたことによる心境の変化とは。その素顔に迫る。

異業種からの挑戦

2019年4月に名興発條株式会社へ中途入社をしてから今年で7年目。前職は、民間企業で塾講師として働いていた。塾講師の業務は、主に平日の夕方から夜にかけて行われる。学校の授業がない夏休みや冬休みの期間は、特に多忙だ。生徒の学力向上を担う仕事にやりがいを感じてはいたが、将来、結婚をしたときに自分の子どもをきちんと育てていけるのか、とても不安だった。

「職場の上司や先輩たちを見ている限り、自分の子どもと接する時間がほとんどないように思いました。家庭を築くのなら、ワーク・ライフ・バランスを重視していきたい。そう考えて、転職を決意したのである。

未経験からのスタートではあったものの、入社からずっと生産管理チームに所属し、今日までのキャリアを積み上げてきた。

業務の効率化を目指す

普段の業務において最も意識しているのが、スピード感のある仕事とムダな作業の削減だ。未経験にもかかわらず、早期に生産管理の仕組みや業務内容を把握し、率先垂範の姿勢で取り組んできた。入社から7年が経ち、スピードへの意識とムダなことに

Company Interview



に対するアンテナの感度は、ますます高まっていると自負している。

異業種からのチャレンジだったからこそ、見えた部分があったのかもしれない。リーダーの素質があり、部下に対して的確に指示をしている姿が周囲から評価されているのも、前職での塾講師としての経験が少なからず活かされていることにあるだろう。もちろん、主任という役職者に就いて初めて得られた意識や感覚もあった。そういったさまざまな要因が重なり、今の自分を形成しているのだと考えている。

もともと入社当時から生産管理チームは、いろいろな面でシステム化を積極的に推進していた部署だった。そのため、エクセルなどのオフィス周りの知識やパソコンのスキルを習得していく必要があり、そうした経験が自分をさらに成長させてくれたと実感している。

意欲的にスキルを磨く

パソコンを用いた業務改善が得意であり、自らRPA（自動入力）プログラムを作成している。パソコンは前職のときから得意だったわけではなく、名興発條に入社してから身につけたスキルだ。

もともと理系の大学に通っていたが、システム系の分野があまり得意ではなかったため、塾講師の道を選んだという事情もあった。だからと言って新たにパソコンスクールに通って何かを習ったわけでもない。自らテキストを購入して、仕事が終わって家

に帰ってからの1～2時間を自学自習に費やした。本格的に勉強に打ち込んだ期間は、およそ1年半。まだまだ道半ばの状態だと感じており、これからも折に触れて学びを継続していくつもりだ。

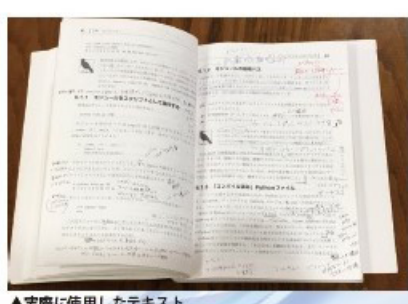
「10分かかっていて作業が5分で完了するなど、業務改善が目に見えて実感できたときは、とてもうれしく感じます。今後は部署内にとどまらず、活躍のフィールドをより広げていければと考えています」。

子どもとの時間がモチベーションに

子どもが生まれてから親としての責任感が芽生え、一緒に過ごせる時間を少しでも長く確保するために、生活のリズムや時間の使い方を真剣に考えて工夫するようになったという。毎晩、子どもの寝かしつけをしているうちに一緒に眠ってしまうため、遅くとも朝4時には起きて勉強の時間を確保している。

日中会社で働き6時半に帰宅すると、そこから子どもをお風呂に入れ、ご飯を食べて、一緒に眠る。早朝に起きて勉強をして、再び会社へと出かける。そうした毎日のサイクルが、とてもいとおしく感じている。フリーランスで働く妻と2人で協力して家事と育児を分担しながら、仕事と生活をますます充実させていくつもりだ。

家族との時間を大切に、前向きな姿勢で仕事に取り組む。その姿は、これからも現場の最前線で輝き続けるだろう。



▲実際に使用したテキスト

ってどんな人？

次々と業務改善を実現し、部署のDX化を推進する社員について、その優れた仕事ぶりや隠れた素顔に迫ります。

Q1. との関係性
私の2年後輩になります。入社当時は一般職として共に勤務していましたが、現在は私が直接部門の班長、彼が間接部門で主任を務めています。

Q2. 一言で表すと
司令塔のような存在

部署全体を見通し、改善策を考える役割を担っています。特にDX化による業務効率化への貢献度は高く、事務処理の自動化など、間接業務がスムーズに回る仕組みを構築してくれました。たとえば消耗品の発注も、彼がつくってくれたシステムのおかげで、今は非常に楽になっています。

Q3. 思い出エピソード
2025年の初めに、車が故障して困ったという話を聞きました。普段は何事も完璧なイメージがあるため、専門外のことだと困ることもあるのかと、意外に感じたことを覚えています(笑)



業務管理グループ 生産管理チーム 出荷管理2班 班長

Q4. メッセージ

体調管理も万全かと思いますが、想定外のことも起こります。どうか身体には気をつけてください。今後のさらなる効率化にも期待しています！

おすすめ

名湯と絶品スイーツに出会う旅

今回、旅のおすすめスポットとして紹介するのは、岐阜県にある下呂温泉。「日本三名泉」の一つであり、歴史や絶品スイーツも楽しめます。旅の思い出とともに、下呂温泉の魅力に迫ります！

行ってよかった観光スポット

2024年の夏ごろに訪れた下呂温泉



良かったポイントや思い出

温泉だけでなく歴史や文化も学べる

下呂温泉の魅力は温泉だけでなく、観光も楽しめる点です。近くには「下呂温泉合掌村」があり、合掌造りの建物を間近で見学できるほか、地域の歴史や文化についても学ぶことができます。

とはいえ、やはり最大の魅力は下呂温泉そのもの。下呂温泉は「日本三名泉」の一つに数えられ、アルカリ性単純温泉として知られています。肌にやさしく、美容や健康にも効果があると言われており、男女問わず訪れる価値のある温泉です。興味を持たれた方は、ぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。きっと満足できる旅になるはずです。

社員のみなさんへ

下呂温泉を訪れた際には、ぜひ「下呂プリン」を味わってみてください。とろけるような食感と上品な甘さが特徴で、そのおいしさにきっと感動されることでしょう。温泉巡りの合間に、ほっと一息つけるスイーツタイムにぴったりです。



品質保証グループ

THE ROOTS of MEIKO

～創業の原風景～

Vol. 1

1950年に創業した当社は2025年で75年を迎えます。今私たちがいるのは、創業当時の苦労や大切にしていた思いがあったからこそ。そのような当社の知られざるルーツを探ります。

今回は記念すべき初回、創業時の1950年から振り返ります。



ナビゲーター

代表取締役 社長 **糟谷 信嘉さん**

専務取締役 **糟谷 豪宏さん**

初代社長(創業者)ってどんな人？

温厚で社員との関わり合いを大切にしていた私たちの祖父にあたる人です。養生を連れて食事に行ったり、慰安旅行をしたり。そうすることで結束力が生まれ、各自のモチベーションも高まっていたように思います。一方で、仕事に対して厳しい一面も。機械の稼働率や作業の安全性に関して現場を常に注視していました。趣味は釣りやゴルフ。お客様と行くことがほとんどでしたが、たまの休みに、私たちも連れて行ってもらうことができました。

【1950年代】

1950年 名古屋市中区平和に「名興発條」を個人創業
1955年 「名興発條株式会社」設立

社名の由来

「名興」は「名前を興したい」つまり「発展させたい」という思いが込められています。

「発條」は、ばねを意味する工業用語に由来します。



▲創業当時の様子

創業当初の様子

創業者 糟谷 芳雄はかつての一世町にルーツを持ち、その後、商業の中心部で鉄工所の多かった名古屋市中区に自宅兼工場を構えます。祖父と祖母、そして従業員の計3～4名ほどで事業をスタート。当時は織り機に使用されるばねを製作していました。ばねを作る機械がまだ存在せず、手で一つひとつ巻いて作っていました。

創業当時から変わらないもの

戦争も経験した祖父は「もったいない精神」が強く「使えるものは使う」という考えの持ち主。その考えが脈々と社員にも受け継がれ、現在の「なんでも自分たちでまずはやる」「もったいないから、どうしてもできないときだけ外注へ出す」という精神につながっています。実際にこれまで、自動化の設備やプレス用の金型など、できる限りお金をかけずに内製し、さまざまな局面を乗り越えてきました。

そういった創業者の思いやモットーが反映されているのが、5つの項目からなる社是です。初代から変わらず大切にしています。

> 次回 > 1950年代後半～1960年代、かけがえのない取引先各社との出会いに触れます。